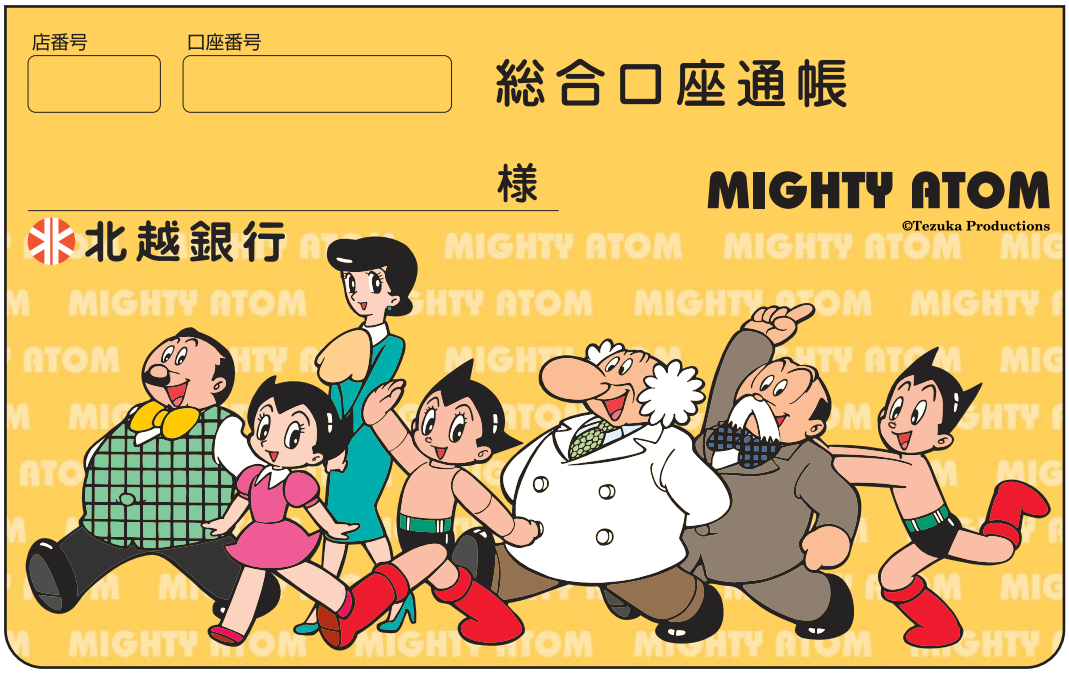

●「鉄腕アトム」の紹介

漫画家、手塚治虫原作の「鉄腕アトム」は、昭和26年(1951年)「アトム大使」の名で雑誌「少年」4月号に登場しました。その後、「鉄腕アトム」として18年の長期に渡って誌面を飾り、手塚の代表作の一つとなりました。昭和38年(1963年)には、国産初のモノクロテレビアニメーションシリーズとして放映され、昭和55年(1980年)にはカラー作品として紹介されました。そして、「アトム」生誕の年である2003年には２回目のカラー作品としてリメイクされました。

作品の登場から今日に至るまで、幅広い世代から愛され続けている国民的キャラクターです。

作品は、21世紀初頭の日本を舞台にした人間とロボットの交流物語で、科学省長官の天馬博士が亡き息子飛雄の身代わりとして作った「アトム」を主人公に展開されています。

大胆かつ繊細に広げられるストーリーの根底には、手塚の「科学的合理主義」への疑問や警告、「人間性」の追及といった思索が秘められ、それは時代・世代を超え、今なお多くの人々を魅了し続けるメッセージとして、そこに息づいています。